

2022年度 日本工学院専門学校											
音響芸術科											
ProTools2											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	60	単位	2
担当教員	吉田 光宏			実務経験	有	職種	ミュージッククリエイター/AVID認定トレーナー				
担当教員紹介											
作曲家/アレンジャーとして数多くの音楽制作に関わり、Avid認定プロツールストレーナーとして従事。 Avid認定の最上位資格である310Mを取得している。											
授業概要											
ProToolsの基本的な操作と、概念をマスターし、音楽関連の現場でエンジニアとして働く者として常識となる技術を習得する。音楽録音は磁気テープ録音の始まりからマルチトラックレコーディングへと進化しライブでは実現不可能なサウンドも形成できるようになった。その流れを組むProToolsは磁気テープ録音の制約を超えた新しいサウンド作成としてもかかせない物であり、コンピュータを楽器として、レコーダーとして使用するため、アニメーションをはじめとする映像分野との運動も高くなっている。ProToolsを通じてレコーディングエンジニア、MAエンジニア、ラジオスタッフのあらゆる場面で活躍できることを目的とする。											
到達目標											
Avid ProTools110の取得を必修とする（このためには101を先に取得している必要がある）。この資格はPro Tools の設計・製造・販売元Avid社認定のワールドワイドな資格である。日本のみならず世界中のプロダクション等にPRできる強みがある。Pro Toolsの高い専門性を生かし、音楽、映像、放送など幅広い録音現場におけるエンジニアとして活躍できる機械を増やすためにも資格を取得する。資格試験の実施には日本国内では本校のような学校が環境、講師ともに最新の技術を導入している必要があり、毎年Avidに認定される必要がある。その貴重な機会を活かす。											
授業方法											
Avid認定のProTools110テキストを使用する。こちらにはProTools全般の操作と様々な用語が解説されている。一見、難解な専門用語も多くあるため、経験ある講師によって具体的な操作を用いながら解説される。講義教室での解説にはProToolsの画面を表示しながら、実際に現場で使われた音楽材を参考にどのように変化していくか、聞きながら学ぶ事になる。音で聞きながら目でも確認することを心がけて参加する。											
成績評価方法											
レポート	80%	授業内容の理解度を確認するために実施する。									
平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。									
履修上の注意											
この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対処する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
Avid認定のProTools110テキスト											
回数	授業計画										
第1回	フォルダトラックについてⅡ										
第2回	クリップグループについてⅡ □										
第3回	エラスティックオーディオで機能の概要Part1										
第4回	エラスティックオーディオ□機能の概要Part2										
第5回	オーディオクリップ、MIDIクリップ、エラスティックオーディオのクオンタイズ										

2022年度 日本工学院専門学校	
音響芸術科	
ProTools2	
第6回	クリップループについて
第7回	エラスティックオーディオ機能を使ったエディットPart1
第8回	エラスティックオーディオ機能を使ったエディットPart2
第9回	MIDIの概要、MIDIデータとはどのようなものか
第10回	MIDIの入力、リアタイム入力とステップ入力
第11回	MIDIデータの編集Part1
第12回	MIDIデータの編集Part2
第13回	I/O設定とクリップカウントオプション
第14回	Solo/Muteインジケータとディスク割り当て機能
第15回	ワークスペースブラウザーとインポートオプション